



こいのぼりのお話

鯉は古くから立身出世の象徴とされてきました。中国の故事、伝説から「黄河の上流にある龍門の急流をさかのぼることができた鯉は、龍になって天をかける」と言われ、出世のたとえに用いられるようになりました。日本において鯉が縁起物にされたのは、江戸時代中期とされています。五色の吹き流しは幼子の無事な成長を願って「魔除け」の意味で飾られるようになりました。

参照

～こいのぼりと五色の吹き流しの話～



廃材の回収のご協力

ありがとうございます

廃材のご協力ありがとうございます。ご家庭より様々なものが届いております。クラスのコーナーあそびや、異年齢でのあそびの中で使わせてもらっています。保護者の方も面白そうな廃材があると、「これあそびに使えるかも」と、持ってきていただき、子どもたちのあそびを思い浮かべながら、協力していただいていることに、感謝しています。

廃材は切ったり貼ったり物を作ったり、失敗しても何度でも気兼ねなく使えます。量もたっぷりあり、子どものあそびには、最適な保育材料です。今後ともご協力お願いします。



毎日がわくわくどきどき 今日は何して遊ぼう！

こいのぼりが気持ちよさそうに泳いでいます。進級、入園して1か月がたちました。環境が変わることで、わくわくどきどきしていたお子さんや、不安な気持ちを持っていたお子さんも落ち着き、中には、まだ少し涙が出ているお子さんもいますが、少しずつ好きなあそびを見つけて遊べるようになって、笑顔が見られるようになりました。ご心配な思いで預けられる保護者の方もおられるかと思いますが、一日も早く「明日も保育園に行きたいな」と言ってもらえるような、楽しい環境づくりをしまいにいます。

コロナウイルスは形を変え、さらに感染力を増し、広島県にも感染者の数が増えてきています。収束にはまだまだ時間がかかりそうです。今年度もできる限りの感染予防対策をしながら、子どもたちにとって今しかできない経験をしっかりさせていきたいと思えます。行事の形はその時々で変わりますが、その時はご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、今年度のくまの・みらい保育園のテーマは、「毎日がわくわくどきどき、今日は何して遊ぼう！」です。子どもたちは見るもの聞くもの、触った感触などおもしろそうだなと思ったら、すぐに飛びつき、やってみようとしています。毎日保育園に来て、やってみたいな、今日はこれして遊ぼう！と自分で決め、集中して遊べるようにしていきたいと思えます。

しかし、子どもたちは遊び始めるとどこまでも遊び続けたいものです。多くの子は時間が来れば「おしまい」が分りますが、中には、まだやりたいとだだをこねる子もいます。時にはご飯の時間になっても片付けしないで遊び続ける子もいます。こんな時はどうすればよいのでしょうか。

今の子どもたちが大人になった頃は、多くの仕事はロボットがやり、人間はアイデアなど頭脳を使う知能社会になっていると言われていています。そのためには

その時々臨機応変に対応でき、自分で状況判断できることや執着心や自己肯定感を今まで以上に身につけて、たくましく生きる力が必要になります。

たくましさには、主体性、柔軟性、想像力、自制心、自己肯定感、自信、回復力、やり抜く力、社会性、協働力、共感力など目に見えない力、これらをまとめて「非認知能力」と言いますが、この「非認知能力」が必要になります。非認知能力は教えられて身に付くものではなく、子どもたちがあそびの中や生活の場面でいろいろな人と関わりながら、自分の体験を通して考え、試し、納得することで身につくもので、乳幼児期の大人の対応が重要になります。

いつまでも遊びたい、言うことを聞かないときに叱ったり、無理にやめさせたり、大人の思いを無理やり押し付けていると、非認知能力は育ちません。何をしたいのかを聞いたり察してあげて、何か目的があるようなら時間が許すまで、させてあげることも心の成長に必要になります。もちろん急ぐ時には無理やりやめさせることにはなりますが、その場合後で必ず「なぜあの時は言うことを聞かなかったのか」を尋ね、「なるほどね」と気持ちを受け止め、「でもね」とか、「今度からこうした方がいいよ」など返していると、自分で判断するようになります。

このやり方は、喧嘩をしたときや、何か失敗した時に効果がありますし、「自分のことを分かってくれている」という安心感から、「自分は愛されているんだ。」という非認知能力の中の自己肯定感や主体性、柔軟性、自制心、社会性などに繋がります。

今年度も子どもたちがあそびを選択して、わくわくどきどきするような環境作りを力を入れ、子どもたちのやりたい気持ちを刺激して、非認知能力を育み、子どもも保護者も職員も楽しくなる保育園を目指していきたいと思えますのでどうぞ宜しくお願いします。 くまの・みらい保育園 園長

どうやってあそぼうかな <砂山ができました>

園庭に砂のお山ができました。子どもたち、どうやって遊ぶか楽しみです。乳児さん幼児さん、年齢によっても遊び方は様々だと思いますが、工夫しながら、時には異年齢で関わりながら遊びます。どんな風にあそびが展開していくか、楽しみにしています。



<芝滑りをして遊んだよ！>白組



お家から持ってきた段ボールで、そり滑りを作りました。どうやったらうまくすべれるかな。みんなで考え、教え合って、だんだん上手になってきました。